

附属資料11 調査サイトの評価表

要請No.	施設名称	対象人口(千人)	スタッフ配備	手術件数		設立	施設の内容	機材の概要	活動状況	サイト条件	整備するメリット	評価		
				実績	期待							施設	機材	
州病院														
12	アル・ガッサニ州病院 (Al Ghassani HGP)	475	医師67、看護師282	654	950	1935	フェイス・フルム州最大の病院、産科に一部USAID,EUの援助による設備機器あり。	産科機材はUSAIDの援助で配備、検査機材は一部が古く故障頻度が多い。	Ibn Al Kahtib専門病院と共にフェイス・フルム州最終レファラル病院を構成している。	12haの敷地に502床の病棟あり、1988-89年に一部増改築された。産婦人科病棟は一部EUにより整備された。	サウジ援助で大学病院(CHU)建設計画があるが、産科は継続される。検査機材を整備する事で州内産科のトップレファラル機能が充	-	A	
24	シディ・サイド州病院 (Sidi Said HSR/MA)	3,000	医師19、看護師138、助産婦1	-	-	1920	専門病院として発足したが、現在は外科、内科を中心とした総合病院へ移	新産科棟が完成、機材は手術室・無影灯だけ配備され他の産科機材が全くない。	専門病院から県内中核の総合病院へ移行し、産科部門が新設され活動開始したところ。		新設産科は機材が未整備で、他ドナーの援助予定もない。産科の機材が整備されることにより、県内中核	-	A	
25	モハメッド5世州病院 (Mohamed V HGR/MA)	2,065	医師53、看護師194、助産婦17	436	413	1956	EUの援助による手術室2室がある。ラボの機材が充実しているが、	産科機材は2年前にEU援助で配備、検査機材は5年以上経過した機材が多い。	年間出生5500、帝王切開500件程度。El-Menza県の中核病院であるが他県からの移送	5階建ての病院の裏に州メンテナンス事務所が併設されている。	ラボ検査活動が年間3万~4万件あり充実しており、一部の老朽化機材を更新することにより、より完全な検査活動が期待される。	-	A	
県病院														
1	モハメッド5世県病院 (Mohamad V HGP)	253	医師5 (OB医師2)、看護師5、助産婦2	39 (70/99年)	506	1971	自力増設した産科病棟での産科機材・検査機材の補強を要請。	産科用機材は必要最低限あるが、新旧機材が極端。産科手術室が外科共用で産科用手術機材はない。	年間分娩5,060件と産科手術506件が期待される。現在は、産科用手術は一般手術室を使用しており年70件	既存施設の3階部分に増築することは技術的な不具合が予測されるため、産科病棟端部に産科手術室(1室)を2階建て(同	県内中核産院として、産科手術室を整備すれば年間500件ほどの異常分娩(帝王切開術など)の対応が可能になる。産科病棟端部に増築	B	A	
9	マルシェ・ヴェルテ県病院 (Marche Vert HGP)	175	医師5 (OB医師1)、看護師10、助産婦2	25	35	1990	130床、産科30床、分娩台3台。分娩室に酸素、吸引の中央配管がある。	産科機材はUSAID援助で一部配備、検査機材も基礎的機材は配備されている。	帝王切開33件(2000年)。ラボは県では最も整備されているが、機材が不十分である。	標高1,000mに位置し、150km離れた所からも受診者が来る。	Boulmane県の半分を受け持つ県病院であり、産科機能が整備される。	-	A	
11	アル・カティフ州病院 (Ibn Al Khatib)	475	医師35、看護師153	168		1912	98年にUSAIDにより全面的に産科の改修と機材供与が行われた。	産科機材はUSAID援助で一部配備されている。	県の3分の1の分娩を受け持っている。帝王切開265件。分娩台3台	10ha以上の敷地に各施設が分散配置されていて、増改築が行われてきている。	産科機材の一部に不足及び故障修理不能のものがあり、その整備充実により、産科の機能が充足される。	-	A	
13	ケニフラ県病院 (Khenifra HGP)	510	医師22、看護師71、助産婦8	198		1953	1983年に増築、1997年にEUにより産科の改築、本年産科手術室が行われ	産科機材は診察・分娩とも3年経過、産科手術室はEU援助、一部機材も配備。	帝王切開198件産科の手術室が本年できるまでは、一般手術室を使用。	市の中心に位置し、県保健事務所が同一敷地内にある	施設改修はEU支援だが、機材が未整備であり、この整備により県中核産科としての機能が充足する。	-	A	
23	アリ・シェリフ県病院 (My Ali Cherif HGP)	562	医師25、看護師122	-		1971	産科は1999年にEUの援助により改築が行われた。	産科機材はEU援助で配備。調査時は新産科部門は未開院。検査機材は5年以上経過	中国人の医師が協力を行っている。産科は45床、分娩台4台。	新設の産科手術室2室の内1室は機材がない。	県中核病院として機材が不足・老朽化しており、機材が整備されることにより、中核産院としての機能が整備される。	-	A	
26	ゲルミン県病院 (Guelmim HGP)	158	医師11、看護師16、助産婦6	未	316	2000	県病院を建設中で、完成部分のみ活発に運営している。	産科用・検査機材とも配置され新・旧機材が極端。手術室が外科部門と共用しており産科用手術機材	異常分娩にはアガディルか、ティズニットまで搬送。出産実績は1,446件。	既存施設内に先方が手術室を改修する計画だが、十分なスペースはない。	県内中核病院として、産科手術室を整備し、産科医師が常駐して異常分娩に対応することで、年間316件の妊産婦の県外搬送が軽減される。	A	A	
30	ハッサン2世・タンタン県病院(Hassan II HGP)	63	医師8 (OB医師1)、看護師15、助産婦3	83	126	1982	総合病院。既存の外科手術室(2室)が混雑。	産科用・検査用機材ともあるが老朽・故障中機材が多い。産科手術は外科部門と共用していることか	2000年の手術実績は小手術1541件、大手術126件で、産科手術(帝王切開)は83件で	旧州病院として専門4科、122床の総合病院。産科病棟脇に増築余地がある。	県内中核病院として、産科手術室を整備し、異常分娩に対応することで年間126件の妊産婦の県外搬送が軽減される。	A	A	
39	アッサ県病院 (Assa HGP)	24	医師9、看護師6、助産婦4	-		2001	新築県病院として、一部を限られたスタッフで開院している。	開院して間もなく、産科用機材は新しいが、検査機材は老朽した機材もある。	CSUAから移転して3ヶ月、分娩件数51件で、県内中核病院として活動開始。	機材供与のみ	一応の機材は整っており、不足機材を補充することで、県内中核産院として年間480件の施設分娩が期	-	A	

要請No.	施設名称	対象人口(千人)	スタッフ配備	分娩件数		設立	施設の内容	機材の概要	活動状況	サイト条件	整備するメリット	評価		
				実績	期待							施設	機材	
産院等														
6	ブルメン地域病院 (Boulemane HL)	68	医師5、 看護師15、 助産婦1	360	835	1944	新病院棟に隣接した産科施設は築50年を経過した積石造	産科機材はUSAIDの援助で大方配備、不足機材を補足する程度	産科16床、分娩台2台で県半分をカバーし年間360件の分娩実績がある	新病院と既存産院との脇に敷地が確保されている。冬季に孤立する。	県東南部の中核となる独立産院を設けて県内レファル体制強化を通じて、年間835件の分娩が期待される。	A	A	
14	ミデルト・ポリクリニック (Midelt PSP)	216	医師36、 看護師36、 助産婦5	1,214	1,440	1954	管理良好であるが分娩3台でありカバー人口と比較して手狭である。	産科機材は大部分が4年以上経過。手術室は外科部門の手術室と兼用している。	ケニフラ県病院と並ぶ中核ポリクリニック。出産件数は年1,214件、帝王切開術は71件の実績あり	病院奥に増築用空き地あり。	産科施設が整備されることにより県南東部の中核産科として、年間1440件の安全な分娩が期待される。	A	A	
20	エル・ハジェブ地域病院 (El Hajeb HL)	200	医師7、 看護師29、 助産婦4	586	2,000	1936	分娩台1台と産科4床でやや手狭であるが、管理状況が良く機能している	産科機材は配備、手術室なく診察・正常分娩のみ対応。検査機器は基礎的機材の	旧産科15床、EUによる産院30床及び手術室2室。	戦前のフランスによる施設で、メンテナンス状況は非常によい。	老朽化した機材を再整備することで、県唯一の地域病院としての役割が充足される。	-	A	
21	アズロウ・ポリクリニック (20 Aout, Azrou PSP)	140	医師16、 看護師94、 助産婦4	1,319	2,800	1952	EUによる産院が完成したばかりである。	産科機材は2年前にEU援助で配備。検査機材の多くは5年以上経過している。	旧産科15床、EUによる産院30床及び手術室2室。	小児科及びラボ、救急棟、EUによる産科の独立3施設より構成される	産科手術室を持つ県内中核産院として、不足機材・ラボ機材が整備されることで、年間2,800件の安全な分娩が期待される。	-	A	
33	フォーム・スキッド地域病院 (Foum Zguid CSUA/HL)	24	医師1、 看護師5、 助産婦2	58	489	1979	79年建造のプレハブ施設で老朽化しており、新地域病院に移転予定である。	産科用が配置されているが、新旧機材・老朽化機材が極端である。	県内最大のオアシス都市で、出産実績は58件、産前検診は第1週検診で185件あり	都市人口に新地域病院が完成したが、産科は3室と手狭であり、隣接して独立産院の建設を計画する	県内中核産院として、地域病院に隣接して独立産院を整備することで、年間489件の安全な分娩が期待される。	A	A	
37	タタ地域病院 (Tata HL/MA)	22	医師9、 看護師14、 助産婦5	349	440	1949	49年から順次建造された施設群で、何れも老朽化が激しい。	産科用・検査用機材とも全般的に不足、老朽化機材が多数ある。産科用手術機材	施設・機材とも老朽化しており医療施設として機能せず。出産実績は349件、他に13件を	市内中心地に別敷地を用意。	県内中核病院に産科手術室付きの独立産院を整備することで、年間440件の正常分娩と県内250件の異常分娩の	A	A	

要請No.	施設名称	対象人口(千人)	スタッフ配備	分娩件数		設立	施設の内容	機材の概要	活動状況	サイト条件	整備するメリット	評価		
				実績	期待							施設	機材	
保健所等														
2	イムザ保健所 (Immouzer CSUA)	45	医師2、看護師14、助産婦3	430	720	1956	産院は管理良好だが産室が狭く位置も不適切。内部の大改修は建築年数	産科機材は診察台、体重計等診察関連機材が一部配備されているのみ。	2000年の出産件数は430件、リファーマは40件。夏季には数万人の観光客が来	プレハブ施設を撤去して独立産院を増築する。	既存産院は非効率な間取りで老朽化。新たな独立産院を整備することで、年間760件の安全な施設分娩が期待	A	A	
3	リバット保健所 (Ribat CSUA/HL)	10 (+31)	医師2、看護師5、助産婦3	177	521	1945	既存施設は築55年で、管理良好だが分娩室が狭く、出入り口にプライバシー	産科機材は診察・分娩とも配備されているが、5年以上経過した機材が大部分で	出産件数は177件の他、69件を50km離れた県病院に転送している	隣接敷地、若干の傾斜地である。	独立産院の整備により、妊産婦のプライバシーが改善され、県内東部の中核産院として年間521件の施設分娩	A	A	
4	アデジ保健所 (Adrej CSCA)	4 (+8)	非常勤医師1、看護師1、助産婦1	36	245	60年代	60年代建造の施設で、産科は狭い1室にて検診・分娩・回復の全てを行	産科機材は診察・分娩とも配備されているが、5年以上経過した機材が大部分で	出産対象人口は4,493人と下位保健所の7,800人を含む。	山岳地にあり、冬季は降雪で孤立することもある。	アドレジと下位保健所の出産環境が改善され、年間245件の施設分娩が期待される。	A	A	
5	アユン・スナン保健所 (Ayoun Senane DR)	11	非常勤医師1、看護師2、助産婦1	-	220	1976	76年建造のプレハブ造で老朽化しており、冬季は隙間風が入る。	乾熱滅菌装置以外は医療機材と呼べる機材は配備されていない。	約600/月の外来がある。診察ベット1床で母子保健活動が主となっている。	敷地内にはプレハブの保健所と宿舎、倉庫があるが何れも老朽化している。	診療所(DR)から産室付き保健所に整備することで出産環境が改善され、年間220件の安全な分娩が期待され	A	A	
7	スコウラ保健所 (Skoura CSCA)	8	医師2、看護師5、助産婦1	57	169	1950	産室は検査・分娩室と回復室の2室で手狭。分娩台2台あ	産科機材は配備されているが、5年以上経過した機材が大部	出産実績は57件/年だが約700/月の外来があり活発である。	敷地が狭いが、既存全面に空地がある。	産室を適正規模で整備し、地域の出産環境を改善することで、年間169件の施設分	A	A	
8	ギゴウ保健所 (Guigou CSCA)	18	医師2、看護師16、助産婦1	160	356	1994	94年建造の施設は一般診療と産科に分離。産科が手狭	産科機材は配備されているが、1台ずつで全てが5年以上経過	出産実績は160件、移送が19件だが、外来診療は60件/日あり活発	敷地は保健所裏手を利用可能。標高1,600mにあり冬は降雪がある。	既存の産科諸室は手狭であるが、利用されていない室を転用すれば解消されると	C	A	
10	シディ・ボウジダ保健所 (Sidi Boujida CSCA)	38	医師3、看護師13、助産婦3	825	760	1953	分娩台3台、6床、施設上の管理は良い	産科機材はUSAIDの援助で概ね配備されている。	出産件数825件/年の実績があり、県内出産数の1/5を受け持つ	施設は古く、増・改築が繰り返し替えられているがメンテナンスは良い。	老朽化した産科機材が補充されれば、さらに活発な母性ケア活動が可能となる。	-	A	
15	ムリルト保健所 (Mrirt CSCA)	63	医師1、看護師14、助産婦1不足	499	841	1961 1981	61年建造の保健所と、離れた敷地に81年建造のプレハブ産院付き保健	産科機材は配備されているが、1台ずつで全てが5年以上経過	2000年の出産実績は499件、リファーマ13件で、地域の産院施設として活躍している。	2敷地のうち老朽化した産院を撤去し、建替え整備する。	独立産院が整備され年間861件の安全な分娩が期待され、別棟の保健所と共に活発な活動が可能となる。	A	A	
16	オウマナ保健所 (Oumana DR)	5	看護師1不足	-	97	1982	1982年建造のプレハブ造保健所。	産科機材は全く配備されていない。	出産実績はないが200件/月の外来診療あり	周辺に分娩施設がなくケニフラの県病院まで45km	孤立地域であるオウマナの出産環境が改善され年間97件の分娩が期待される。	A	A	
17	ティサリン保健所 (Tighsaline CSCA)	10	医師1、看護師2、助産婦1	25	210	1975	1975年建造のプレハブ保健所で老朽化。分娩台1台	産科機材はなく、分娩も診察台を使用して行われている。	分娩実績は25件/年であるが、診療・検診など活発である。	敷地は増築余地がないため、更地に移転。	分娩関係諸室が手狭な現在の施設が適正規模に改善され、年間210件の施設分娩が	A	A	
18	トネフィテ保健所 (Tounefite CSCA)	23	医師1、看護師5、助産婦1	2/月(24)	456	1942	1942年建造の積石造。産室が手狭。	産科機材は配備されているが、1台ずつで全てが7年以上経過	分娩実績は24件と少なく、産前検診の初診139件、産後検診178	既存施設裏に増築余地あり。	独立産室を整備することで、現在の手狭さが解消され年間456件の施設分娩が期	A	A	
19	ボウミア保健所 (Boumia CSCA)	28	医師1、看護師5、助産婦1	15-17/月(88)	551	1950	50年建造の保健所と、500m程離れた敷地に80年代建造のプレハブ産院で	産科機材は配備されているが、1台ずつで全てが7年以上経過した機材である。	出産件数は88件で、他に14件の移送があった。下位に2保健所(DR)をもつ。	保健所裏に増築余地。	独立した産室が建設されることで、良好な出産環境が整備され、年間551件の施設分娩が期待される。	A	A	

要請No.	施設名称	対象人口(千人)	スタッフ配備	分娩件数		設立	施設の内容	機材の概要	活動状況	サイト条件	整備するメリット	評価		
				実績	期待							施設	機材	
22	イフレン保健所 (Ifrane CSC)	12	医師1、看護師5	-	238	1988	住宅街の公園中にある1988年建造の保健所。老朽化した地域病院の産科	老朽化した地域病院の産科機材を移転するが、老朽化した分娩台・診察台程度でUSAIDの援助で配備された診察台、診察灯等は新しいが、他の機材は老朽している	地域病院の出産実績は174件で、他に48件の移送あり、住宅街に近く活発である	16km離れたアズロウにEU援助の産院があるが、本保健所は住宅街内の利便性から利用者は多い	老朽化した地域病院が移転・整備されることにより、年間238件程度の施設分娩が期待される。	A	A	
27	タグジテ保健所 (Taghjijt CSCA)	13	医師2、看護師4、助産婦1	83	264	1987	分娩室を含む既存保健所は87年建造でクラック等の発生もない	産科用機材は全く配備されていない。一般診察用機材も少なく老朽している	USAIDの援助で配備された診察台、診察灯等は新しいが、他の機材は老朽している	出産件数は83件と、ティズニット県病院への搬送が10件。	約400㎡の既存施設は良く管理されており、内部に転用できる病室がある。	年間264件の施設分娩が期待されるが、内部に転用スペースがあり、不足する産科機材の整備のみとする。	C	A
28	ファスク保健所 (Fask CSC)	3+5	医師1、看護師1	-	165	1962	96年建造の保健所棟、62年建造の看護師宿舎(旧保健所)。何れも施工	産科用機材は全く配備されていない。一般診察用機材も少なく老朽している	下位に4つの保健所(DR)を持ち、対象人口8,000人の産科施設となる	コミュンの中心地に医師住宅、看護師宿舎、保健所と3棟が建てられており、一部を撤去する	県内東部のコミュンを対象地域とした産科施設として、年間165件の施設分娩が期待される。	A	A	
29	イフレン・ゲルミン保健所 (Ifrane Guelmim CSCA)	14	医師1、看護師3、助産婦1	90	290	1961	1961年建造の保健所棟と、1980年代建造の産院棟がある	USAIDの援助で配備された診察台、診察灯等は新しいが、その他の機材は老朽している	USAIDの援助で配備された診察台、診察灯等は新しいが、その他の機材は老朽している	活発だが検査室が狭く、別棟の保健所も老朽化	既存産院棟は築20年を経過、敷地前面に増築が可能	良好な分娩環境を整備することで、年間290件の施設分娩が期待される。	A	A
31	オウティア保健所 (El Ouatia CSU)	3	医師1、看護師3不足	-	69	1999	コミュンが1999年に建造した保健所で約400㎡ある。	USAIDの援助で配備された診察台、診察灯等は比較的新しいが、分娩用機材は配	外来診療は500件/月、妊産婦検診は100件/年あり、活発である。	既存施設内に利用していない4室があり、分娩室等に転用が可能である。	既存施設内で転用可能であり、不足する産科機材のみ整備する。	C	A	
32	ティルゾウネ保健所 (Tilmzoune DR)	1+遊牧民	医師1、看護師1	-	38	1975	土漠地帯にある人口400人の集落内の小規模な保健所(2室のみ)	産科用機材は全く配備されていない。一般診察用機材も少なく老朽している	更に40km離れた集落に保健所(DR)があり、産科施設としてカバーする計画である	集落から1km程はなれた国道沿いに、給水・給電が可能な別敷地を確保。	期待される出産件数が年間38件と少ないため、レファラル上の効果は低いと判断した。	C	C	
34	ファミエル・ヒシン保健所 (Fam El-Hisin CSUA)	16	医師2、看護師2、助産婦1	46	316	1948	48年から順次建設された保健所棟と産科棟で構成、共に老朽化が著し	USAID援助の診察台、診察灯等が配備、産科用機材も一応整備されているが、老朽	分娩実績は年間46件のほか10件が160km遠方の病院へリファー。外来診療は600件/日で活	約500m離れたモスクの並びに敷地を準備、新保健所(CSU)も将来移転の予定	タタ県内の4都市の一つと周辺をカバーしており、独立産院を整備することで年間316件の施設分娩が期待され	A	A	
35	アッカ保健所 (Akka CSUA)	20	医師1、看護師4、助産婦1	126	361	1982	既存施設は82年建造で構造的問題はない。出産が冬期に集中するため分娩・回復室が狭	USAIDの援助で診察台、診察灯等が配備、産科用機材も一応整備されているが、モロッコに代理店が	下位に5つの保健所あり、新規産前検診260件、出産件数126件、リスク出産64件、他	県内オアシス都市の一つで、敷地内に増築余地がある。既存施設は構造上問題なく、内部に転用できるスペースがある。	タタ県内の4都市の一つで年間361件の施設分娩が期待されるが、既存施設内に転用可能なスペースがあるため、不足する産科機材の整	C	A	
36	ティシント保健所 (Tissint CSCA)	11	医師1、看護師3、助産婦1	16	211	1989	89年にドイツNGOが建設。検診・検査・分娩がパーティションで仕切った一室であり	USAID援助で診察台、診察灯等が配備、産科用機材も一応整備されているが、老朽化機材が多い。	産前検診の実績は134件で活発であるが、施設分娩は16件であった。	既存脇に増築敷地を用意しているが、既存施設は約210㎡で、内部に転用できるスペースがある。	年間211件の施設分娩が期待されるが、内部に転用可能なスペースがあるため、不足する産科機材の整備のみ検討する	C	A	
38	ザグ保健所 (Zag CSUA)	6	医師3、看護師7、助産婦1	144	120	1984	84年建造の保健所は約600㎡あり、クラックが発生して補修中であった	産科用機材は全般的に整備されている。しかし、老朽している機材も幾つかあ	土漠地帯の小都市で年間144件の分娩実績がある。人口は6千人と少ないが、十分な広	機材供与が要請された。	人口規模に比較して施設分娩数が多く、不足する産科機材を整備する事で、良好な出産環境の創出が期待さ	-	A	
40	ラーナ保健所 (Lahna DR)	2	医師1、看護師1	-	75	1984	アッサから未舗装道路を60km走った集落にある小保健所。	産科用機材は全く配備されていない。一般診察用機材も少なく老朽している	外来診療は月200件と活発であるが、分娩人口には下位保健所を含めて2千人をカバーし	集落内の小学校横に保健所と医師宿舎があり、診療所脇に増築可能である	既存施設をCSCAに格上げ希望だが、分娩件数が75件と少ないため、増築工事の効果は低いと判断した。	C	C	